

平成 29 年 1 月 19 日

各 位

会 社 名 株式会社ネクスグループ
 代 表 者 名 代表取締役社長 秋山 司
 (JASDAQ・コード 6634)
 問 合 せ 先
 役 職 ・ 氏 名 代表取締役副社長 石原 直樹
 電 話 03-5766-9870

連結決算における損失の計上ならびに

平成 28 年 11 月期通期連結業績予想値と実績値との差異に関するお知らせ

当社は、平成 28 年 11 月期連結決算において、下記のとおり損失を計上するとともに、平成 28 年 1 月 19 日に公表いたしました平成 28 年 11 月期の連結業績予想と本日公表の実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 損失の計上の内容

(1) 売上原価の増加

連結子会社の株式会社ネクスにおいて、前期より一部顧客との間で延伸になっております受託開発案件の製品仕掛について、保守的に見直しを行い、棚卸資産を減じた事により製造原価が 329 百万円増加しました。

(2) 特別損失の発生

連結子会社の株式会社チチカカにおいて、各店舗の採算性を再度厳格に評価し、不採算となりうる可能性の高い店舗を新たに 18 店舗抽出しました。当該店舗につきましては、再建に向け分析検証ならびに体制再構築を進めておりますが、現段階では再建に向けての不確実性がまだ高いことから、期中に退店決定した店舗も含め合わせて 320 百万円の減損損失として評価減を計上いたしました。

2. 平成 28 年 11 月期通期連結累計期間業績予想数値と決算数値との差異

(平成 27 年 12 月 1 日～平成 28 年 11 月 30 日)の連結業績予想との差異

(単位:百万円未満切り捨て)

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	当期純利益 (百万円)	1株当たり 当期純利益 (円 銭)
前回予想(A)	12,910	112	108	△308	△21.20
今回実績(B)	12,231	△619	△770	△1,068	△71.77
増減額(B-A)	△679	△731	△878	△760	
増減率(%)	△5.2	-	-	-	

(ご参考)前期実績 (平成27年11月 期)	7,416	△529	△810	△45	△3.14
------------------------------	-------	------	------	-----	-------

○差異の理由

売上に付きましては、株式会社ネクス（以下、「ネクス」）において、前期に販売を開始しました新製品のOBDⅡ型データ通信ユニット、「GX410NC」の販売において、主に車両管理のソリューションを提供する法人や商社など約20社に対して、4千台を上回るサンプル導入をおこないましたが、導入に向けた試験運用期間や導入に際しての顧客側でのシステム開発に、想定以上に時間を要したため、今期中の本格的な受注に至らず、売上が予想値を下回りました。

また、株式会社SJI（以下、「SJI」）において、2016年4月28日付でSJI株式が特設注意市場銘柄の指定継続となり、売上高の大半を占める既存顧客からの継続案件は、SJIの技術力に対する評価およびこれまでの信頼関係により、大きな影響を受けなかったものの、新規案件の受注は一部獲得が難しい状況となりました。また、特設注意市場銘柄指定解除後の2016年9月24日以降早々に、与信回復による受注増を想定しておりましたが、SJIの顧客の多くが3月末決算の会社であり、本格的な受注増となる時期は顧客の新年度にあたる2017年4月以降になる見込みとなり、当社の予想値7,000百万円に対し、5,337百万円の実績と、予想値を大きく下回る結果となりました。

一方、2016年8月に子会社化した株式会社チチカカ（以下、「チチカカ」）は決算月を3月から10月に変更し、2016年8月から10月の3ヶ月間の業績を当連結決算に取り込みましたが、前述した売上減少分を補うまでに至らず、売上は予想値を679百万円下回りました。

利益面については、ネクスにおいて、売上高減少の影響は、部製品の仕入原価の低減、外注費用の見直しなどにより、原価および販管費の低減をおこないましたが、前期より一部顧客の間で延伸になっている受託開発案件の製品仕掛について保守的に見直しをおこない、棚卸資産を減じた事により製造原価が329百万円増加しました。

SJIでは、販売費および一般管理費の徹底した削減の結果、連結・個別ともに、黒字で着地したものの、滞留していた売掛金の回収が遅れたことにより、予想値を下まわる結果となりました。

また、SJIの連結子会社であるSJ Asia Pacific Limitedが100%保有する、恒星情報(香港)有限公司の株式を捷中有限公司に譲渡したことで、関係会社株式売却益182百万円を特別利益として計上しました。

その一方でチチカカは、グループ入りした後、不採算店舗の閉店を順次進めており、2016年3月時点の137店舗から7ヶ月間で26店舗を閉店し2016年10月末時点で111店舗体制となって、不採算店舗の閉店や人員体制の見直しなどによる構造改革を進めてきた結果、2016年10月には単月営業黒字に転換いたしました。ただ、グループ入り後に2016-2017年秋冬の商品の販売見通しおよび、各店舗の採算性を再度厳格に評価し、不採算となりうる可能性の高い店舗を新たに18店舗抽出しました。当該店舗につきましては、再建に向け分析検証ならびに体制再構築を進めておりますが、現段階では再建に向けての不確実性がまだ高いことから、期中に退店決定した店舗も含め合わせて320百万円の減損損失として評価減を計上いたしました。

上記の結果、売上高においては、12,231百万円、営業損失は585百万円、経常損失は758百万円、親会社株主に帰属する当期純損失は1,010百万円となりました。

以上